



がくとう

令和3年9月1日発行
校長 伊藤 栄司
8・9月号 No5

大きな壁を乗り越えて

校長 伊藤 栄司

64年ぶりに開催された、東京オリンピック・パラリンピックは、日本人選手の「史上初や〇〇年ぶりのメダル」とめざましい活躍が連日報道されています。選手の多くは、1年延期に伴う体力面、メンタル面での調整や感染症との戦いなど、大きな壁を乗り越え競技に臨み努力の成果を夢の舞台で遺憾無く発揮しています。

パラリンピックは、あと数日続きますが選手一人一人が積み重ねてきた自信や誇りがぶつかり合う、素晴らしい瞬間を目撃することができた大会になりました。

仲間とともに

大会を通して特に印象深かったことは、チーム・団体として戦った種目（バスケットボール、サッカー、卓球、フェンシング、アーチェリー・柔道など）です。一人ひとりの力を結集し、仲間とともに全力を尽くす選手の力を見る者を感動で満たしてくれました。「残り数秒」・「あと1ポイント」を取るための極限状態での精神力は、厳しい練習を重ね自己を鍛えるとともに、チームが一丸となってそれぞれの夢を追ってきたからこそ成し得た賜物でしょう。トップアスリート達が夢を果たせた歓喜の涙と笑顔だけでなく、思い通りの結果が残せなかったときに見せた悔し涙にも、一緒になって大きな感動を味わうことができました。

いつもの五輪とは違い、時差なくリアルタイムで競技を観戦できたことも開催国ならではの良さでした。テレビをつけると必ず何かの競技を中継していて、試合会場の手に汗握る緊張感が伝わってきました。無観客だからこそ聞こえてくる選手の息遣いやコーチのアドバイス、ユニフォームや道着がこすれる音など本物の迫力を画面越しに感じることもできました。

憧れや夢を追いかけて

子供たちもきっとテレビを見ながら「あの競技をやってみたい」「何かにチャレンジして努力してみよう」等、様々な憧れや夢を抱いたことでしょう。努力すること、あきらめないことの大切さを教えてくれた大会でもありました。また、新種目のスケートボード女子ストリートで金メダルを獲得した西矢選手は、13歳の中学2年生。専属のコーチもなく、周りの愛好家と切磋琢磨しながら好きなことを突き詰めていった結果の金メダルは、競技を楽しむことの大切さを教えてくれる良い手本となりました。

さらに、206もの国・地域が参加した今回の大会は、世界の広さと多様性を実感させてくれました。多くの国や地域、そこに暮らす人々のことをもっと知りたい、実際に行ってみたいと夢が広がったのではないのでしょうか。

2学期のスタート

残暑厳しい中、2学期がスタートしました。子供たちが夢を抱き、目標に向かって努力するために必要なことを日々の授業の中で教えることができるよう、教職員は夏季休業中に準備を進めてきました。また、今まで以上に新型コロナウイルス感染症拡大を防止するための手立てを具体的に考え、授業や行事等を実施していく予定です。

今学期も保護者・地域の皆様のご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いします。

【9月の予定】		
1日（水）始業式	11日（土）土曜授業 中止	20日（月）敬老の日
2日（木）4時間授業	15日（水）	21日（火）セーフティー教室
3日（金）5時間授業 給食開始	児童・生徒の学力向上を図るための調査（6）	23日（木）秋分の日
7日（火）発育測定（1、2）校外学習（1）	16日（木）5時間授業	24日（金）避難訓練
グリーンセンター多摩川見学（4）	児童・生徒の学力向上を図るための調査（4）	27日（月）5時間授業
9日（木）発育測定（3、4）	17日（金）校外学習（1）	30日（木）脊柱側弯健診（5）
10日（金）発育測定（5、6）	児童・生徒の学力向上を図るための調査（5）	

9月の生活目標：『規則正しい生活をしよう』

夏休みが終わり、2学期が始まりました。夏休みには、長い休みにしかできないことを経験したり、オリンピックの選手を応援しスポーツの素晴らしさを感じたりしたことと思います。一方で、遅い時間まで起きていたり、朝遅くまで寝ていたり、生活のリズムを崩してしまった子供たちもいるのではないのでしょうか。

今月の生活目標は、『規則正しい生活をしよう』です。9月は、運動会に向けての練習も始まります。生活リズムの乱れは体調不良に繋がりがねません。気持ちよく充実した2学期を送るために「早寝、早起き、朝ごはん」を心掛け、夏休み前の規則正しい生活に戻しましょう。ご家庭での声掛けなど、ご協力よろしくお願いします。（生活指導委員会：春日 弓子）

～5年生 稲の観察～

総合的な学習の時間で、稲を育てています。5月に田んぼ実行委員会が田んぼの雑草抜きをしました。その後、5年生全員で代かき、田植えを行い成長を見守りました。7月になると、稲は青々と風になびく程に生長しました。観察した感想の一部を載せます。

- 1組 自分の家でバケツ稲も育てています。はじめは、稲がたおれてしまわないか心配でしたが、たおれずに育っていて良かったです。これから、どんなお米ができるか楽しみです。（S・T）
- 2組 私は実行委員会で田おこしからやってきたので、自分たちが作った田で田植えをする時は、とても小さかったのにとっても大きく生長していたので「すごい！」と思いました。（K・I）
- 3組 いねを初めて植えた時よりも生長していて、前よりもぴんと立っていました。いねも人間といっしょで時間がたてばたつほど成長することを学びました。（K・K）
- 4組 社会の時間にお米を作っている人の苦勞、努力、工夫、願いなどについて学習しました。総合的な学習の時間に自分がいざ体験をしてみるととても分かりやすく実感しました。（Y・M）

「マロンの夏休み」

飼育委員会の6年生の児童が「マロンのお世話に来ることが、私の夏休みの楽しみの一つです。」と元気に話してくれました。コロナウイルス感染症の影響で活動が制限される中、児童が日常生活の中に豊かさや、やりがいを見つけていることに心の成長を感じました。みなさんの夏休みはいかがでしたか。飼育委員会の児童のマロンの世話ぶりは大変立派でした。

ご家族でお世話の付き添いに来ていただくなど、大変お世話になりました。
ありがとうございました。今後もよろしくお願いします。

（飼育委員会担当：山野井 誠）

